

第3節 構成要素

1. 名勝を構成する要素

名勝の構成要素は、その本質的価値との関わりから、(1) 本質的価値を構成する要素、(2) 付带的価値を構成する要素、(3) その他の要素の3種に分類する。それらを一覧にまとめたものが表6である。

表6 名勝構成要素一覧

(1) 本質的価値を構成する要素	①桜並木 ②本堤 ③松井孫右衛門人柱堤（浅間堤） ④駿河堤 ⑤周防堤 ⑥棒堤
(2) 付带的価値を構成する要素	①境楠 ②大日権現社 ③ドンデン場 ④神宮御用材貯木池跡 ⑤宮川堤植桜碑 ⑥宮川春まつり
(3) その他の要素	①度会橋（県道37号鳥羽松阪線） ②宮川堤公園 ③伊勢神宮奉納全国花火大会

(1) 本質的価値を構成する要素

①桜並木

中島2丁目の松井孫右衛門人柱堤（浅間堤）付近から度会橋を挟み、宮川橋の辺りまで1km余りにわたり、「一目千本桜」といわれた桜並木が続いている。

平成23年7月21日に行われた国土交通省の立木調査によると、旧宮川グラウンド下手から



宮川橋手前の堤防整備計画区間において 763 本の樹木が確認され、その内サクラは 741 本と全体の約 97%を占めている（付図 桜分布図／付表 桜一覧表参照）。

サクラの大部分はソメイヨシノであるが、中には根回り 1.5mを越えるヤマザクラの古木やカンザン、ベニシダレザクラといった品種も存在する。

②本堤

宮川堤の根幹を成す総大堤。度会橋の袂に「名勝 宮川堤」の石標柱が立つ。

正保 4 年（1647）、第 8 代山田奉行石川大隈守政次のはからいで修築。高さ 2 間半（約 4.5m）、根張 12 間（堤下幅約 21.8m）、馬踏 2 間（堤上幅約 3.6m）、長さ 265 間（約 482m）の規模となる。この堤防工事の際、土石採取により出来たのが小太郎池だが、現在は埋め立てられ宅地となっている。



その後も本堤は築造と修築を繰り返し現在に至っているが、堤防の天端幅が狭く、断面も小さいため、長い時間水位が高い状態が続くと堤内地側に水がしみ出したり、ガマを噴いたりする箇所がある。また、洪水中に法面が崩れて堤防が薄くなり、破堤してしまう危険性も指摘されている。

③松井孫右衛門人柱堤（^{せんげん}浅間堤）

宮川堤の中で、最も上流側に位置する^{みずはね}水勿堤。延享 5 年

（1748）、山田惣中により修築された。長さは 85 間（約 155m）。

大水の氾濫の際、無事を祈る^{こり}垢離行者が^{ほこら}祠を設け、はるか富士浅間を拝んだという意を取って浅間堤と呼ばれたが、この堤はむしろ松井孫右衛門人柱堤として広く



知られている。

古来、宮川堤は洪水により決壊を繰り返してきた。孫右衛門は堤防鎮護のため、自ら申し出て人柱になったと伝わっている（参考資料 松井孫右衛門参照）。

本堤には**神明神社**があり、松井孫右衛門の**石像**が祀られている。その台石に刻まれた由来によると、孫右衛門の命日は寛永10年（1633）8月25日であるが、当時、宮川堤が修築されたという記録はなく、浅間堤修築の時期とは百年余りの相違が生じるため、この言い伝えは伝説の域を出ていない。しかし、孫右衛門は義人として広く世間に伝えられており、現在でも小学校の社会科副読本に紹介されている。

この神明神社内には上述の他、以下のような構成要素が存在する。

- ・手洗石 貞享2年（1685）？11月
- ・石標柱 ^{かもん}掃守社舊蹟 明治42年（1909）3月7日
- ・手洗石 昭和5年（1930）7月15日 小川町青年團
- ・石標柱 松井孫右衛門人柱堤 昭和8年（1933）3月
宇治山田市教育会
- ・句碑 山口誓子 孫右衛門西向き花のここ浄土
昭和45年（1970）4月
- ・その他、祠・鳥居・石灯籠・石碑など

毎年、孫右衛門の命日である8月25日には、松井孫右衛門顕彰会により、**ご命日祭**が営まれている。

また、同堤には宮川^{あこね}菑稻荷が存在する。祠内に残置された由来板によると、宮川往来の舟人の安全祈願のため、外宮勾玉池畔の菑社の分身を祀ったもので、平成15年4月に再建したという。境内には**祠、鳥居、手洗石**がある。

現在の松井孫右衛門人柱堤は、国土交通省の「宮川床上浸水対策緊急事業」により築造された新堤防が交差しているため、中程で分断されたかたちとなっている。

④駿河堤

度会橋下流側に位置する一本目の水勿堤。貞享2年（1685）の築堤で、長さは30間（約55m）余。

第11代山田奉行岡部駿河守勝重により築造されたため、「駿河堤」と呼ばれる。

費用として銀 20 貫が江戸幕府から下付され、山田の^{じにん}神人等も銀 5 貫を献じている。

駿河堤は真っ直ぐに延びた水刳堤で、その先端部は切り石で覆われ、自然生えしたと見られるエノキの大木がシンボリックな景観を形成している。



⑤周防堤

度会橋下流側に位置する二本目の水刳堤。元禄 15 年（1702）の築堤で、長さは 26 間（約 47m）。

第 12 代山田奉行長谷川周防守重章により築造されたため、「周防堤」と呼ばれる。

費用として金 500 両が江戸幕府から下付された。

周防堤は下流側に向かって緩やかに湾曲した水刳堤である。



⑥棒堤

度会橋下流側に位置する三本目の水刳堤。寛保 2 年（1742）の築堤で、長さは 60 間（約 109m）。

築造の経緯は詳らかでない。

この棒堤は宮川橋に向かって屈曲する本堤から、ほぼ真っ直ぐに延びる形の水刳堤である。



（2）付带的価値を構成する要素

①境楠

樹高約 10m、胸高周囲 8 m のクスの大木。北家の支配に属する中島町と榎倉家の支配に属する中川原町（明治元年（1868）、宮川町と改称）と

の境に位置したので、この名がある。

クスの若枝を逆さまに植えたのが今の状態になったため、本来は「逆楠」というとの説もあるが、「さかひぐす」の「ひ」が省略されて生じた俗説であろうと考えられている。



また、この樹より白蛇が現れて、京町の八幡祠に遷ったとの伝説もあり、「蛇楠」とも称される。

古くから「楠さん」と呼ばれ、付近の人々の信仰の対象であり続けている（参考資料 境楠参照）。

昭和33年（1958）、市は天然記念物に指定したが、平成15年（2003）に老衰枯死した。しかし、この境楠の苗木から二世木が生育し、先代の西側に植樹されている。

当地は宮川の高水敷であるため、これまで度々洪水により、樹の根が洗われるということがあった。

そこで、平成19・20年度（2007・2008）の2ヶ年で、天然記念物境楠保存整備事業として、周辺を天然ブロック積で防護した。その結果、洪水に洗われることは、今ではほとんど無くなっている。

この境楠の境内地には上述の他、鳥居・石段・案内板といった構成要素が存在する。

なお、枯死した先代境楠には、自然生えたと見られるムクノキとサカキが接しており、いまだに樹形を保っている。現在も天然記念物の指定解除は行っていない。

②大日権現社

「大日権現 みずのととり 元禄六 癸酉 五月吉日」（1693）と彫られた大日塔がある。塔は現高60cm、幅35cmの自然石。彦兵衛という地元の町人が創祀したと伝わる（参考資料 大日権現参照）。御祭神は木花開耶媛命このはなのさくやひめのみことと大日如来。



昭和 58 年（1983）10 月末日、宮川町の桶谷幸生氏が犬の散歩中、草叢の中に見つけ、以後、大日権現社として祀られるようになった。

この大日権現社には上述の他、以下のような構成要素が存在する。

- ・手洗石 昭和 8 年（1933）
- ・案内板 大日権現の由来
- ・石標柱 大日権現社 平成 10 年（1998）10 月 桶谷幸生氏建立

なお、かつては鳥居が設置されていたが、現在は滅失している。また、囲いのあるサクラの老木はほとんど枯れている模様である。

③ドンデン場

お木曳行事の際、宮川から引き上げた御用材をドンデン返す場所。柳の渡しがあつた堤の頂上部に当たる。ドンデン返しを行うときには臨時にスロープが設けられるが、普段は階段になっている。



④神宮御用材貯木池跡

大湊の貯木場から宮川を遡行して外宮用の御用材を貯木した場所。通称「下川」と呼ばれた。

昭和 50 年前後の高水敷造成時に現在の形に埋め立てられた。

今では「神宮御用材貯木池跡」の石標柱（神宮大宮司 徳川宗敬書、昭和 50 年（1975）3 月、伊勢市教育委員会建立）が立つのみである。



⑤宮川堤植桜碑

大正 6 年（1917）1 月 15 日、小川町青年によって建てられた記念碑。

碑の撰文は神宮禰宜置塩藤四郎おしおの手に成るもので、「…毎歳花時白雲掩堤、遊人絡繹猶墨江之堤、嵐峡之孺矣。宮川之勝於是乎倍舊時（人の往

来が引きもきらず隅田川や嵐山のようにすばらしい」と讃えている（参考資料 宮川堤植桜碑参照）。



⑥宮川春まつり

サクラが見頃となる4月上旬頃に宮川堤で開催される。

宮川保勝会の奉仕によりぼんぼりが設置され、この時期は昼も夜も花見を楽しむ人々で大いに賑わう。



(3) その他の要素

①度会橋（県道37号鳥羽松阪線）

鳥羽市と松阪市を結ぶ主要地方道に架かる橋。橋長362m。初架橋は木橋で、明治44年（1911）4月竣工。昭和8年（1933）5月、永久橋に改良され、昭和37年（1962）2月、舗装工事が完了した。昭和62年（1987）3月には四車線化され、現在の橋が竣工した。



②宮川堤公園

伊勢市が管理する都市計画公園で、右岸高水敷に度会橋を挟んで立地

する。「宮川風致地区」と重なっており、公園種別は主として風致を享受することを目的とする「特殊公園」。面積は 64,000 m²。市民の散歩、憩いの場、春の花見や夏の花火見物の場として利用される。



③伊勢神宮奉納全国花火大会

通称「宮川の花火」。日本三大競技花火大会のひとつで、打ち上げ数は約 1 万発。伊勢市、伊勢市観光協会、伊勢商工会議所、中日新聞社が主催し、近年は 7 月中旬の海の日を含む連休の土曜日に開催している。第 1 回開催は昭和 28 年（1953）10 月 17 日。第 61 回となった平成 25 年（2013）の人数は約 27 万人であった。



2. 名勝の周辺環境を構成する要素

名勝の周辺環境構成要素は、その位置するところから、（1）堤外地（川）、（2）右岸、（3）左岸の 3 地域に分類する。それらを一覧にまとめたものが表 7 である。

表 7 名勝周辺環境構成要素一覧

（1）堤外地（川）	①桜の渡し（下の渡し）跡 ②柳の渡し（上の渡し）跡 ③石の河原 ④おばたまつり（みこしの川渡し）
（2）右岸	①案内板「宮川堤」 ②案内板「旧跡 宮川・桜の渡し（下の渡し）」
（3）左岸	①宮川親水公園 ②尾崎喞堂記念館 ③案内板「柳の渡し跡」

(1) 堤外地 (川)

①桜の渡し (下の渡し) 跡

四日市の日永の追分で東海道から分岐する伊勢街道の渡し場。

主に東国からの参宮客が利用した。桜が多く植えられ、街道筋の渡し場としては下手に当たるので、この名がある。歌川広重の錦絵にも登場する。参宮鉄道の開通や宮川橋の架橋により、その役割を終えた。



②柳の渡し (上の渡し) 跡

主に大和・紀州からの参宮客が利用した伊勢本街道の渡し場。柳が植えられ、街道筋の渡し場としては上手に当たるので、この名がある。参宮鉄道の開通や度会橋の架橋により、その役割を終えた。



③石の河原

近年は良質の石の確保が難しくなっているが、神宮式年遷宮の行事の一つ、お白石持行事で奉獻される白石は宮川の河原から拾い集められる。

国土交通省の「宮川床上浸水対策特別緊急事業」により河道掘削が行われたが、その後の大雨で流路が変わったため、河原の形状にも変化が生じている。



④おばたまつり (みこしの川渡し)

平成9年から始まった小俣町の祭りで毎年8月頃に開催される。その折、宮川で行われるのが川渡しの船みこしで、桜の渡し跡に沿って、左

岸から右岸を往復する。



(2) 右岸

①案内板「宮川堤」

財団法人伊勢文化会議所が平成2年に設置した案内板。平成21年に伊勢市教育委員会が寄贈を受け、同年度中に板面を更新した。

なお、さくら名所100選の記念プレートは、この案内板に取り付けられている。



②案内板「旧跡 宮川・桜の渡し（下の渡し）」

財団法人伊勢文化会議所が昭和63年に設置した案内板。平成元年に伊勢市教育委員会が寄贈を受け、平成17年に改修している。案内板の設置箇所は「桜の渡し記念公園」として、伊勢市教育委員会が占用・管理している。



(3) 左岸

①宮川親水公園

伊勢市が管理する河川敷の公園。ふれあい広場、水辺の舞台、水遊び

のせせらぎ、渡しの体験の池、宮川や桜の渡しの案内プレートなどがある。



②尾崎号堂記念館

政治家尾崎行雄（号堂）を記念するため、尾崎家から土地と建物を伊勢市が譲り受け、昭和34年に開設した資料館。施設の老朽化に伴い全面改築工事を行い、平成15年に新装開館した。



当記念館と宮川には直接のつながりはないが、尾崎行雄が東京市長時代にアメリカ合衆国へ桜の苗を贈ったことがあり、両国交流の証としてハナミズキや桜が敷地内に植えられている。

③案内板「旧跡 柳の渡し（上の渡し）」

財団法人伊勢文化会議所が平成2年に設置した案内板。平成3年に伊勢市教育委員会が寄贈を受けた。案内板の設置箇所は尾崎号堂記念館の一角である。

